

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 人間力創成教育院

基準 2 内部質保証

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0203	重点事業計画に記載される事項は前年度の実施案件と当該年度(及び以降)の事業計画が主であり、学部等の他の教育系組織においてこれを自己点検・評価と位置づける例は見られない[0203b]。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
これまで重点事業計画を検討する中で、そのための課題を抽出し、費用などの適切性や効果などを勘案して、大学へ申請していることから、そのプロセスにおいて自己点検がなされているとしていたが、2021 年度 (対象: 2019 年度～2020 年度) のピアレビュー報告書で不適切の指摘を受けた。人間力創成教育院では、他にも自己点検・評価を実施していることから、重点事業計画を自己点検・評価に位置付けないとする。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0201	内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。	自己評価	B
評価の視点	(3)大学全体規模や学部、研究科その他の組織（教職課程を実施する全学的組織を含む）における自己点検・評価をそれぞれ定期的に実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。 (4)学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。 (5)行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。			
現状説明				
人間力創成教育院には、全学共通教育を管轄する全学共通教育部と、SDGs 教育を管轄する SDGs 教育環がある [2-1]。 全学共通教育部では、人間力創成教育院全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）が定期的 に開催され、年度毎に活動状況・課題などを整理した報告書が示され、次年度への取り組みが議論される [2-2]。 この作業の前には、各教育プログラム（EP）において報告書作成が行われるが、その過程により、EP 内でも教育活動の振り返りや課題の検討が行われる [2-3]。 各科目において、授業アンケートが実施されることから、その結果を踏まえて、各教員レベルで授業改善が図られる。また、共通の課題であれば、EP 長・主任などが参加する全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運				

営委員会）や、人間力創成教育院の本務教員が参加する教員会議で対応が議論される。ただし、学生の意見や外部評価を取り入れる組織的な取り組みは弱いものと考えられることから、今後検討する必要がある。

SDGs 教育環には、SDGs 学際専攻全学教育プログラム WG、SDGs 教育プロジェクト WG、SDGs ゼミナール WG が設立されている [2-4]。中部大学の SDGs 教育の大きな柱は SDGs 学際専攻（中部大学学長の認定資格、2023 年度から全学展開）[2-5] であり、その運営を SDGs 学際専攻全学教育プログラム WG が担っている。この会議は教務委員会後に行われ、この会議において SDGs 教育の課題の抽出や資格修了者の認定作業が行われる [2-6]。また、関連する科目担当者を集めた他学部科目担当者会を年 2 回開催し、運営に関する情報共有や課題解決を行うと共に、SDGs 教育全般に関する議論を行っている [2-7] [2-8]。このように、全学的な委員会レベル、担当者レベルにおける SDGs 教育の深化を行っている。SDGs 教育プロジェクト WG は、大学内にある学生活動を主体とする教育プログラムの連携を、SDGs ゼミナール WG では全学共通教育における他学部学生と連携するゼミナール授業について検討を進めている [2-9]。これらの活動の中でも、議論を行いながら学生教育を進めているので、自己点検・評価をしながら活動している状況である。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0201	各 EP の活動や課題、対策を報告する仕組みがあり、それを実施することで、各 EP でも振り返りや対策の検討などが行われている [2-3]。
項目 No. 0201	SDGs 学際専攻における他学部科目担当者会を実施し、SDGs 教育に関する情報共有を行っている [2-7] [2-8]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0201	自己点検・評価に関する各 EP や SDGs 学際専攻の担当者間の情報共有
今後の改善・向上方策	
各 EP や SDGs 学際専攻担当者間で情報共有を行い、科目担当者レベルでの科目の自己点検・評価を進める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0201	学生の意見や外部評価を取り入れる組織的な取り組み
今後の改善・向上方策	
学生の意見は授業などで取得しており、外部評価はピアレビュー委員による評価が該当する。学生の意見や外部評価を取り入れる組織的な取り組みについて、その意義も含めて、人間力創成教育院の組織として検討する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
0201 人間力創成教育院には、全学共通教育を管轄する全学共通教育部と、SDGs 教育を管轄する SDGs 教育環に分かれていて教育が進められ、それぞれの会議の開催は資料より確認できる [2-4] [2-5] [2-6] [2-7] [2-8]。しかし、今回の自己点検・評価シート内には基準 4(a)(b)において関連する SDGs 教育を管轄する SDGs 教育環所管の

SDGs 教育の自己点検・評価が触れられていない（一部、前回の課題事項 No. 0407 を除く）ことから、適切に機能させていると判断しにくい。自己点検・評価の内容が各 EP から上がった点のみに絞られているためと思われる。各 EP・WG から上がった内容を総括するとともに、SDGs 教育についても点検・評価する体制が望まれる。	
長所・特色	
特になし	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
各 EP、WG から上がった内容を総括するとともに、全学 SDGs 教育についても点検・評価する組織体制が望まれる。 【B】	

SDGs 教育の自己点検・評価が触れられていない（一部、前回の課題事項 No. 0407 を除く）ことから、適切に機能させていると判断しにくい。自己点検・評価の内容が各 EP から上がった点のみに絞られているためと思われる。各 EP・WG から上がった内容を総括するとともに、SDGs 教育についても点検・評価する体制が望まれる。	
長所・特色	
特になし	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
各 EP、WG から上がった内容を総括するとともに、全学 SDGs 教育についても点検・評価する組織体制が望まれる。 【B】	

SDGs 教育の自己点検・評価が触れられていない（一部、前回の課題事項 No. 0407 を除く）ことから、適切に機能させていると判断しにくい。自己点検・評価の内容が各 EP から上がった点のみに絞られているためと思われる。各 EP・WG から上がった内容を総括するとともに、SDGs 教育についても点検・評価する体制が望まれる。	
長所・特色	
特になし	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
各 EP、WG から上がった内容を総括するとともに、全学 SDGs 教育についても点検・評価する組織体制が望まれる。 【B】	

SDGs 教育の自己点検・評価が触れられていない（一部、前回の課題事項 No. 0407 を除く）ことから、適切に機能させていると判断しにくい。自己点検・評価の内容が各 EP から上がった点のみに絞られているためと思われる。各 EP・WG から上がった内容を総括するとともに、SDGs 教育についても点検・評価する体制が望まれる。	
長所・特色	
特になし	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
各 EP、WG から上がった内容を総括するとともに、全学 SDGs 教育についても点検・評価する組織体制が望まれる。 【B】	

SDGs 教育の自己点検・評価が触れられていない（一部、前回の課題事項 No. 0407 を除く）ことから、適切に機能させていると判断しにくい。自己点検・評価の内容が各 EP から上がった点のみに絞られているためと思われる。各 EP・WG から上がった内容を総括するとともに、SDGs 教育についても点検・評価する体制が望まれる。	
長所・特色	
特になし	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
各 EP、WG から上がった内容を総括するとともに、全学 SDGs 教育についても点検・評価する組織体制が望まれる。 【B】	

SDGs 教育の自己点検・評価が触れられていない（一部、前回の課題事項 No. 0407 を除く）ことから、適切に機能させていると判断しにくい。自己点検・評価の内容が各 EP から上がった点のみに絞られているためと思われる。各 EP・WG から上がった内容を総括するとともに、SDGs 教育についても点検・評価する体制が望まれる。	
長所・特色	
特になし	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
各 EP、WG から上がった内容を総括するとともに、全学 SDGs 教育についても点検・評価する組織体制が望まれる。 【B】	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2024 年度（対象年度 2021～2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成教育院
--------	----------

基準 4	教育・学習 (4a)
------	------------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0404	受講希望者数の多い科目に対しては、クラス増等、早め早めの対応が望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
年度終わりの全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）において、各授業の受講者数の様子が示され、関連する EP により、受講希望者数の多い科目に対する対応が示され議論される [4a-1]。例えば、【教養課題 EP 科学技術リテラシー】では、「物理と自然」は、2024 年度から遠隔講義で行うことにより、受け入れ人数の増加に対応できるようになった。科学技術リテラシー「生物と環境」は、2025 年度より遠隔講義実施の申請を行い、更なる受け入れ人数の増加に対応できるようにした [4a-2]。2024 年度より科学技術リテラシー「科学技術と社会」のクラス数を 1 コマ増加させた。また、【専門職 EP 教職課程】では、2023 年度より理工学部で教職課程が設置されたこともあり、学生数が増加した。それにともない、1 年生科目を 7 クラスで運営している [4a-3]。さらに、【専門職 EP 司書課程】では、一部座学講義が 120 人程度、演習が 100 人程度であるが、ここ 2 年ほどで増加傾向が止まり、対応を行わなくとも実施が可能となっているが、今後の需要の拡大に備え、整備していきたい。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0404	抽選の競争率が高い科目については、学生の要望に応えるためにコマ数を増やして抽選の競争率を 2 倍以下に抑える取り組みを行う [0404q]。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
年度終わりの全学共通教育委員会において、各授業の受講者数の様子が示され、関連する EP により、受講希望者数の多い科目に対する対応が示され議論される [4a-1]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0402	学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	自己評価	A
評価の視点	学習成果の達成につながるよう、授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 ※ 具体的な例 ・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。 ・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。 ・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。			

現状説明

人間力創成教育院全学共通教育部では全学共通教育を担当している。授業科目の位置づけと到達目標、学習時間はシラバスに記載しており、シラバスチェックも適切に行われている。また、例えば、外国語科目は次の学期の難易度は前の学期よりも上がるよう設定されるなど、学びの深度に配慮した授業を行っている。学びの過程の可視化は全学共通教育のみで実施するものでもなく、学部・学科の科目と連動するものと考えられることから、全学共通教育における学びの過程の可視化は、可視化の意義も含めて今後全学的に検討する必要がある。

その他、各 EP には独自の取り組みや課題があることから、以下に特徴のある EP の状況を示す。

【初年次】初年次 EP は、スタートアップセミナーの運営補助 [4a-4] や参考テキスト作成 [4a-5]、SDGs 学際専攻チラシ作成 [4a-6] などを行い、さらに、入学前教育のあり方の議論とそれを受けた入学前ガイダンスリーフレットの作成 [4a-7]、担当者会における全学的な情報共有を行っている。スタートアップセミナーは 1 年生春学期に開講されており、高校生から大学生への移行をサポートし、全学共通教育・学部学科専門教育につながる重要な科目である。2023 年度は大学全体の方針として「シラバスの精緻化」が求められていることを鑑み、これまで全学的に統一されていたシラバスを、学科ごとに変更することを可能とした。これにより、学科ごとに到達目標等の明確化が行われた [4a-8]。

【語学 EP 外国語】初めの学期で学習したことをさらに深く学習できるよう、次の学期は難易度が前の学期より上がるよう設定されている [4a-9]。

【語学 EP 日本語教育】シラバス作成時に担当教員同士でこれまでの蓄積を踏まえ、新年度の方針を立てている [4a-10]。

【語学 EP 日本語スキル】1 年生の時点でスキル科目「日本語スキル A」を開講し、「書くこと・話すこと・言葉の知識」について日本語の基礎的運用力を培っている。1 年次に履修できなかった学科の学生には 2 年生秋学期以降に未履修・再履修クラスを設けている。また発展科目「日本語スキル B」を開講し基礎力をより高めたい学生にその機会を提供している。しかし、「日本語スキル A」の開講期を 1 年生春学期にしたい学科が多く、語学 EP 日本語スキルの春学期：秋学期の開講クラス比率は、様々な工夫を施しても 42:25 (2023 年度) であり、非常勤講師を含めた教員配置が毎年難しい状態である [4a-11]。

【情報】1 年次春学期に「情報スキル入門」、秋学期に「情報スキル活用」を開講している。「情報スキル入門」では、PC およびアプリケーションの基本操作をしっかりと学習し、「情報スキル活用」で応用的な使い方を学習している。どちらも 1 年次に学習することで残りの 3 年間 PC を活用する力をつけることができるよう配置している。また、どちらも各自が所有する PC を使った実習を重視している [4a-12] [4a-13]。

【健康とスポーツ】必修科目の「健康科学」では、「体力診断テスト」と「形態および身体組成」を測定し、現在の体力状況を認識させるとともに、健康と運動、健康と生活習慣病および高齢化社会等の観点から健康や体力の意義について理解させている。また、1 年次に受講することで学生生活における身体活動による心身の健康を促す [4a-14] [4a-15]。選択科目の「スポーツ A, B, C」では、スポーツの楽しさを体験させ、スポーツ種目の実施を通して社会性を理解し、生活の中に活かす術を習得させている [4a-16]。

【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】教養課題教育プログラム（人文・社会リテラシー）では、全学的な教育課程の体系化のなか、1 年生秋学期から受講可能な授業を 13 科目 179 コマ (2023 年度実績) 開講している [4a-17]。

【教養課題 EP 科学技術リテラシー】科学技術リテラシーでは、全学に向けて物理、化学、地学、生物学、農学、工学、医学、データサイエンスなどの 9 科目の講義を編成している [4a-18]。データサイエンス系の科目は、一人の教員が単一のシラバスの下、すべての講義を行っている。(シラバス「データサイエンスのための数理要論」[4a-19]「問題解決のための統計学入門」[4a-20]) その他の科目は、単独、あるいは、複数の教員が分担しながら実施している。また、同一科目名の講義でも教員毎にそれぞれシラバスを準備し、それぞれの得意なやり方で、科目分野の魅力を受講者に伝えるようにしている (例えばシラバス「数学の思考法」[4a-21])。また、大学生として最低限知っておいて欲しい内容が含まれているように、シラバスの第三者チェックを通して確認している。

【リベラルアーツ】2024 年度より 3、4 年生向けの授業「リベラルアーツ課題演習」A、B、C が 8 クラス正式開講する。ある程度専門性を持ちはじめている学生に、高いコミュニケーション能力と幅広い問題意識を養うという教育目標に沿った授業科目である [4a-22]。

【キャリア】「自己開拓」を 1 年生秋学期に開講し、「スタートアップセミナー」履修後の 1 年生を主な受講者として想定した授業内容を組んでいる。また、「社会人基礎知識」(2024 年度から廃止) は「自己開拓」履修者の次の段階として科目設定している [4a-23] [4a-24]。

【専門職 EP 教職課程】教職課程では文部科学省より出されているコアカリキュラムをベースにカリキュラムを組んでいる。必要な科目や単位は法的に定められており、大学間で科目名称等の違いはあっても取り扱う内容に大き

な差はない。また年次配置も4年次での教育実習が教職課程での学びを教育現場で実践する場となっており、教育実習に向けて理論的にも実践的にも学びが整備されていることを、シラバスの第三者点検によりチェック・修正している [4a-25]。

【専門職 EP 日本語教員養成講座】 本学の日本語教員養成講座は、便覧で明記しているように文化庁の日本語教員養成機関の養成課程のガイドラインにある「必須の教育内容の50項目」を満たしているものである。今後日本語教員の資格取得は国家資格化されることとなり、2029年までの経過措置として、これまでの過程について必須の教育内容の確認がおこなわれた。項目と科目の対応を確認し、対応表を作成し毎年の調査で報告した。調査結果は2024年1月に文化庁に報告し、本学の日本語教員養成講座は、2024年3月29日に文化庁ホームページで公開された「必須の教育内容50項目に対応した日本語教員養成講座等の一覧」と「2000年報告に対応した日本語教員養成講座等の一覧」に記載されている [4a-26] [4a-27]。

自己点検・評価項目	0403	課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	自己評価	A
評価の視点		(1) 授業形態、授業方法が教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果に応じたものであり、期待された効果が得られているか。 (2) ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。 (3) 授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。 ※ 具体的な例 ・ 学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応。 ・ 単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置。 ・ シラバスの作成と活用（学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容であるか。）。 ・ 授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等などの措置。		
現状説明				
各 EP が担当している科目において、例えば、日本語スキルでは、全クラス40名前後以下の規模で全て対面授業を行い [4a-28]、「情報スキル入門」、「情報スキル活用」科目ともに、学習効果を高めるための実習を行うなど、科目の特性に合わせて授業形態、授業方法が検討され、適切に実施されている。 各 EP には独自の取り組みや課題がある。以下に特徴のある EP の状況を示す。 【初年次】2023年度は大学全体の方針として「シラバスの精緻化」が求められていることを鑑み、これまで全学的に統一されていたスタートアップセミナーのシラバスを、学科ごとに変更することを可能とした。これにより、全学科で共通するシラバスの内容は変更せずに、学科独自の内容がある場合に「授業の趣旨（概要）」「具体的達成目標」「成績評価方法」「成績評価基準」を追加修正できるとした [4a-8]。また、スタートアップセミナーは少人数クラスによる密な学生指導を意識し、各学科に20名程度のクラス配置をお願いしている [4a-29] [4a-30]。さらに、全学的な共通項目を設定し、その部分の授業資料として、参考テキストを作成し配布している [4a-5]。 【語学 EP 英語】学習支援室にて、英語の時間帯（90分）を月曜から金曜まで毎日設置している [4a-31]。 【語学 EP 外国語】各講義で学習した内容を、課題などのかたちで学生に与え、それに対して学生は自宅で復習することになっている。これは、シラバスに明記されている [4a-9]。また、シラバスには記載していないが、中国語入門Ⅰでは中国語で中華料理を注文できるよう、冊子を作り、実際に注文してくるような課題を出すクラスがある [4a-32]。しかし、各外国語の繋がりがなく、各クラスで実施している工夫が見えにくい。 【語学 EP 日本語教育】入学時に日本語の実力を測るテストを行う [4a-33] とともに、これまでの日本語学習歴を把握するアンケート調査を行っている [4a-34]。また、授業内容の理解度・達成度の確認のため、小テスト、復習テストを行い [4a-35]、学生にフィードバックしている。授業外学習については、課題を提出させ、学生にフィードバックしている [4a-36]。 【語学 EP 日本語スキル】全クラス40名前後以下の規模で全て対面授業を行い [4a-28]、学生が行った「文章作成」、「スピーチ」に対する指導が行き渡るような形態となっている。また、中部大学独自の教科書を作成し、それに沿った授業を行っている。毎時間の小テストに対する課題を教科書に盛り込み、学習すべき内容を十分に示し、				

予復習をしやすいしている [4a-37]。全クラス、初回授業配布のオリエンテーション資料に明記した共通の授業計画に基づき授業を進めている [4a-38]。

【情報】「情報スキル入門」、「情報スキル活用」とともに、学習効果を高めるための実習を行っている [4a-12] [4a-13]。

【健康とスポーツ】体育実技の実施を主に、個々の体力水準に合わせて学生主体で取り組むことができるように、多様な種目を準備し選択させている。学内5つの体育施設（メイン体育館、サブアリーナ、トレーニング室、卓球場、グラウンド）で授業を展開している [4a-14]。また、強化指定クラブに所属する学生を対象とした「スポーツ活動」では、春学期と秋学期に1回ずつ講演を開催している。大学スポーツにかかわる学生が巻き込まれやすい問題や、スポーツを軸とした大学のブランディングなど、その時々々の社会問題や学生のニーズにあわせて講師を選定している [4a-39]。さらに、必修科目「健康科学」において体力測定を実施し、各学生に結果をフィードバックしている [4a-15]。スポーツ実施を通して、集団活動における社会性を身に付けさせている [4a-16]。

【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】シラバス点検を通して、具体的な授業内容や授業外学習を明確にするように心がけている [4a-40]。

【教養課題 EP 科学技術リテラシー】データサイエンス系の2科目（「データサイエンスのための数理要論」「問題解決のための統計学入門」）では、ICTを用い遠隔授業を行っている [4a-41]。LMSを利用し、毎回の課題提出を促し、質問への随時の返答など、通常の講義と変わらないかそれ以上の学生へのサポート体制をとっている。遠隔授業については、学期毎に遠隔授業実施報告書でその実施内容を確認している。2024年度から「物理と自然」、2025年度から「生物と環境」が遠隔実施を行う [4a-2]。

【特別課題】授業形態、授業方法が教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果に応じたものであり、期待された効果が得られているかについて自己点検した [4a-42] [4a-43]。

【リベラルアーツ】シラバスに沿い、21世紀的リベラルアーツ授業の特徴である、ディスカッションやアクティブラーニングに力を入れた授業を展開している [4a-44]。

【キャリア】授業の目的を効果的に達成することについて、「自己開拓」では、「自分を知る」「他の人と関わることを試みる」「生きること、働くことを考える」という目標を達成するのに適したグループワーク形式の授業運営をおこなっている [4a-23]。

【専門職 EP 教職課程】教職課程では、文部科学省での課程認定においてシラバスも提出している。提出時意見がついたものについては、修正し再提出を行う。そのような過程を経ているため、シラバスについてはすでにレビューを受けている。またICTについても授業で積極的に取り入れるよう文部科学省より求められており、各教員はICTを使って授業するとともに、アクティブラーニングにも取り組んでいる。

【専門職 EP 学芸員課程】応用生物学部の学生増加に伴い、自然科学系施設への関心が増え、実習希望先の相談幅も広がったが、教員確保・時間割調整等で負担が増し、その点の軽減に向けた検討が望まれる。

【専門職 EP 日本語教員養成講座】日本語教員養成課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっているかどうかは、シラバスで確認している。シラバスの点検は、当該年度も第三者によるシラバス点検でおこなった。授業の履修に関する指導は、2023年度は例年どおり1月に日本語教員養成講座登録説明会を開催し、授業の履修などについて丁寧に指導している。さらに、コロナ後、4年ぶりに台湾教育実習（中国文化大学へ2名派遣）を実施することができた。本講座の2024年度登録者数（新3年生）は、27名で、新4年生教育実習予定者は18名（学内14名、海外4人）である [4a-45] [4a-46] [4a-47]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0402	【初年次】各学科のスタートアップセミナーの授業内容がシラバスに反映され、具体的達成目標等が明確になるように、シラバス作成の仕組みを変更した [4a-8]。
項目 No. 0403	【語学 EP 外国語】シラバスには記載していないが、中国語入門Ⅰでは中国語で中華料理を注文できるよう、冊子を作り、実際に注文してくるような課題を出すクラスがある [4a-32]
項目 No. 0403	【リベラルアーツ】シラバスに沿う21世紀的リベラルアーツ教育の推進 [4a-44]
項目 No. 0403	【キャリア】「自己開拓」では授業目標の達成に適したグループワーク形式の授業運営を実施 [4a-23]

項目 No. 0403	【専門職 EP 教職課程】学科数の多さに対応したきめ細かいクラス編成。中人数をベースにアクティブラーニングを行う。
項目 No. 0403	【語学 EP 英語】学習支援室平日毎日開講 [4a-31]
項目 No. 0402	【健康とスポーツ】必修科目「健康科学」において体力測定を実施し、各学生に結果をフィードバックしている [4a-15]。スポーツ実施を通して、集団活動における社会性を身に付けさせている [4a-16]。
項目 No. 0403	【教養課題 EP 科学技術リテラシー】LMS を用いた遠隔講義の実施による、受講者数の増加への対応 [4a-2] [4a-41]
項目 No. 0402	【専門職 EP 日本語教員養成講座】本学の日本語教員養成講座は、文化庁 HP で公開の「必須の教育内容 50 項目に対応した日本語教員養成講座等の一覧」と「2000 年報告に対応した日本語教員養成講座等の一覧」に掲載された [4a-26] [4a-27]。
項目 No. 0403	【専門職 EP 日本語教員養成講座】海外教育実習（台湾中国文化大学に 2 名派遣）を実施した [4a-45] [4a-46] [4a-47]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0402 項目 No. 0403	全学共通教育委員会における授業改善の PDCA サイクルの継続的实施
今後の改善・向上方策	
「学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。」「課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。」の観点から、全学共通教育委員会において各 EP からの課題抽出とその対応を議論し、その解決について大学と協議する。この授業改善に関わる PDCA サイクルの継続的かつ適切な実施が、全学共通教育部の全体の課題となる。 指摘した授業改善の PDCA サイクルは新しい課題ではないが、継続的な実施が重要と考えていることから、ここで強調して示した。全学共通教育委員会において、授業改善の PDCA サイクルを今後も継続的に実施する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0402	【語学 EP 日本語スキル】日本語スキル A における春学期開講数と秋学期開講数の大きな偏りの解消
今後の改善・向上方策	
大学全体の組織改編が行われる機会を狙って、1 学科ずつでも履修を春学期から秋学期に移動してもらえるようにお願いをするしかない状態である。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0402	【健康とスポーツ】スポーツ科目の開講数減少、体力測定結果の活用方法について
今後の改善・向上方策	
科目の精選や非常勤講師の高齢化により、さらなるスポーツ科目の開講コマ数の減少が想定される。スポーツ宣言を打ち出している本学としては、さらなる充実を図りたいと考える。 健康科学で実施している体力測定の結果を研究に活用し、1 年次だけでなく大学生活において縦断的に測定できるよう検討していく。	

Ⅲ. ピアレビュー結果

9/40

0402	各科目群におけるシラバスチェック（第三者チェック）の方法においても人間力創成教育院組織として把握しておく必要がある【B】
0403	学習成果達成のために適切な授業形態や方法、指導や支援の取り組みの検証が求められる【B】。
0402	学びの過程の可視化については全学的に検討が必要であるが、各部門それぞれで検討が必要であり、全学共通教育においても検討が必要である。【B】
0403	教員確保や時間割調整が困難である問題は今後も発生する可能性が高く、改善方法については継続的な検討が必要である。【B】

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
P4a-1	20221117 遠隔実施科目申請（科学リテラシー）「物理と自然」	○
P4a-2	2022 活動報告（教養課題 EP 科学技術リテラシー）	○
P4a-3	ポスター	○
P4a-4	SDGs ゼミナール受講者の感想	○
P4a-5	「英語スキル I-II」授業用 HP	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021~2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 人間力創成教育院

基準 4 教育・学習 (4b)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、組織内での問題共有を進め、一層の改善・向上に向けた組織的な取り組みが望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
年度末に開催される全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）において、当該年度の教育活動に関する振り返りが行われ、課題の抽出と解決策および全学的な要望等が検討される [4b-1]。その中で、教育課程およびその内容、方法の適切性について問題の共有と改善に向けた組織的な議論が行われる。したがって、教育改善の仕組みが整っており、実施されている。 また、各 EP においても、授業改善に関わる取り組みが行われている。特徴的な活動を以下に示す。 【初年次】初年次教育科目スタートアップセミナーは各学科が担当している。学科間の情報共有や課題の改善・教育向上を目指して、年 2 回の担当者会（スタートアップセミナーと入学前教育）を開催している [4b-2]。 【教養課題 EP 科学技術リテラシー】科学技術リテラシーの各科目について、実施者が実施主体の責任ある立場の方（例えば、副学部長や学科主任）に世話役になってもらうと共に、人間力創成教育院の兼務としている [4b-3]。これより、問題共有および改善向上のための組織づくりを行っている。 【専門職 EP 教職課程】教職課程運営委員会で実施した教職課程自己点検評価において、点検評価を行い確認した。全国私立大学教職課程協会が作成した「教職課程自己点検評価基準」と評価手続き・様式にもとづき、実施した [4b-4]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	入学前教育の目的や実施内容に関わる全学的な議論の場の設定
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
入学前教育の内容および実施に関する全学的な調整を初年次 EP が担当している。入学前教育の目的を明確にするために、学生用の資料として、入学前ガイダンスで配布するリーフレットを作成している [4b-5]。また、入学前教育および初年次教育の各学科の担当者を集めた担当者会を年 2 回開催し、入学前教育・初年次教育に関する全学的な議論の場を設定している。この担当者会を活用して、全学的な情報共有、課題の抽出と改善策の検討を行い、全学的な入学前教育に関する意識を高めている [4b-2]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	履修希望数の多い科目と少ない科目に関する対処
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）において、各授業の受講者数の様子が示され、関連する EP により、受講希望者数の多い科目に対する対応が示され議論される [4b-6]。例えば、【教養課題 EP 科学技術リテラシー】では、「物理と自然」は、2024 年度から遠隔講義で行うことにより、受け入れ人数の増加に対応できるようになった。科学技術リテラシー「生物と環境」は、2025 年度より遠隔講義実施の申請を行い、更なる受け入れ人数の増加に対応できるようにした [4b-7]。2024 年度より科学技術リテラシー「科学技術と社会」のクラス数を 1 コマ増加させた。また、【専門職 EP 教職課程】では、2023 年度より理工学部で教職課程が設置されたこともあり、学生数が増加した。それにとともに、1 年生科目を 7 クラスで運営している [4b-8]。さらに、【専門職 EP 司	

書課程】では、一部座学講義が120人程度、演習が100人程度であるが、ここ2年ほどで増加傾向が止まり、対応を行わなくとも実施が可能となっているが、今後の需要の拡大に備え、整備していきたい。

☑ 課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0407	自己点検・評価を継続的に行い改善する組織（しくみ）の整理
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
全学共通教育委員会では、授業改善に関わるPDCAサイクルが存在している[4b-9]。したがって、自己点検・評価を継続的に行う仕組みが存在する。また、その過程において、各EPでも、年度の教育活動の振り返りと次年度の活動方針が検討されることから、EPレベルにおける継続的な自己点検評価が行われている[4b-1]。	

☑ 課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0407	学生からのニーズの抽出に関する検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
授業改善に関わる意見の抽出は、大学が実施している授業アンケートにより行われるとともに、各授業でもレポートやチャトルシートなどを活用して個別に行われている[4b-10]。	

☑ 課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0407	日本語教員養成講座プログラムの改善
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022年度に日本語教員養成講座プログラムの改善について関係部局も交えて検討したが、文化庁の国家資格化への動向を待って今後も継続して検討することになった[4b-11]。	

☑ 課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0407	日本語教育実習の改善
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
日本語教育実習については、国際センターを中心に改革が進み、2023年度から学内教育実習は夏季休業中に実施する形に変更した。それとともなって3年次の日本語教授法C、Dの内容も変更されることになった[4b-12]。	

☑ 課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0407	SDGs教育の充実
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
人間力創成教育院では、全学的なSDGs教育の検討と実施を担当している。その担当部署がSDGs教育環である。SDGs教育環には、SDGs学際専攻全学教育プログラムWG、SDGs教育プロジェクトWG、SDGsゼミナールWGが設立されている[4b-13]。中部大学のSDGs教育の大きな柱はSDGs学際専攻（中部大学学長の認定資格、2023年度から全学展開）であり、その運営をSDGs学際専攻全学教育プログラムWGが担っている。この会議は教務委員会後に行われており、SDGs教育の課題の抽出や資格修了者の認定作業が行われる[4b-14]。また、関連する科目担当者を集めた他学部科目担当者会を年2回開催し、運営に関する情報共有や課題解決を行うと共に、SDGs教育全般に関する議論を行っている。このように、全学的な委員会レベル、担当者レベルにおけるSDGs教育の深化を実施している。SDGs教育プロジェクトWGは、大学内にある学生活動を主体とする教育プログラムの連携を、SDGsゼミナールWGでは全学共通教育における他学部学生が連携するゼミナール授業について検討を進めている。これらの活動の中でも、議論を行いながら学生教育を進めているので、自己点検・評価をしながら活動している状況である[4b-15]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4

段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0404	成績評価、単位認定を適切に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)成績評価および単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。 (2)成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。 (3)既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。			
現状説明				
成績評価および単位認定はシラバスに記載されている評価基準に従い、公正に実施している。また、成績評価および単位認定にかかる基準・手続きを学生にシラバスで示しており、その適切性はシラバスチェックにおいて確認している。 各 EP における特徴的な活動を以下に示す。 【初年次】初年次 EP が関与する初年次教育科目スタートアップセミナーは学科の担当教員が成績評価、単位認定を行っている。学科の成績評価の情報は全学的な担当者会（スタートアップセミナーおよび入学前教育）で共有されている [4b-16]。 【語学 EP 英語】語学 EP（英語）主任およびオペルト主任が適切な授業編成を行っている。各科目の責任者が年末にシラバスを作成し、その後語学 EP（英語）主任が点検している。 【語学 EP 日本語スキル】「日本語スキル A」全クラスについて評価方法を統一し、シラバスに加えて全クラス共通のオリエンテーション資料にも明記し配布している。第 15 回の授業で、その段階において可能な範囲での成績を個々の学生に伝達している [4b-17]。「日本語検定」2 級以上の認定者は「日本語スキル B」（2 単位）の単位認定を行っている（成績は「T」）[4b-18]。 【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】単位の取得が極端に難しい例がないか教員間でチェックしているとともに、シラバス点検を通して、成績評価が客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか、確認している [4b-19]。学生からの不服申立についても、個別にメールなどでの対応に加えて、教務支援課を通じた正式な方法が確立しており、期日が決められたなかで、教務支援課を介した対応が行われている [4b-20] [4b-21]。 【教養課題 EP 科学技術リテラシー】シラバス第三者点検にて成績評価の方法が書かれていることを確認している。科学技術リテラシー科目毎の単位取得率を学期毎に調査して、年度毎に EP 活動報告として全学共通教育委員会に提出している [4b-1]。 【特別課題】成績評価および単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか自己点検した[4b-22]。その結果、各学期初めの「追加履修登録」をした受講者と通常の履修登録をした受講者の間で成績評価に不公平が生じる問題点が明らかとなった。教務支援課との協議により 2023 年度秋学期より特別課題教育科目については原則として「追加履修登録」を認めない方向で履修登録システムを改善した結果、授業運営、教育効果、成績評価の公平性が大きく改善されたことを確認した[4b-23]。 【キャリア】成績評価、単位認定については、担当者で共有している『マニュアル集』において規定しており、学生に対しては授業中に口頭で明確に説明している [4b-24]。 【専門職 EP 教職課程】成績評価、単位認定はシラバスの段階で評価基準を公開するとともに、教育実習を目標として実習に資する能力を身につけているかという観点で評価している。 【専門職 EP 日本語教員養成講座】成績評価および単位認定については、シラバスの第三者点検をおこない確認している。また日本語教育実習については、実習指導担当教員からの評価を日本語教育実習科目担当者を経て教務支援課に提出され、客観的かつ厳格で、公正、公平に実施している。講座の認定証書は便覧に記載されているとおり、学位記授与と同時に授与される [4b-25]。				

自己点検・評価項目	0405	学生の学習成果を適切に把握および評価していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。 (2)学習成果を把握・評価する指標や方法は適切か。 (3)指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を			

	図っているか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・ アセスメント・テスト (GPS-Academic) ・ ルーブリックを活用した測定 ・ 学習成果の測定を目的とした学生調査 (学びに関する調査 等) ・ 卒業生、就職先への意見聴取
現状説明	
各授業において学生の学習成果を適切に把握および評価している。学習成果を評価する指標や方法(試験やレポートなど)はシラバスに明記しており、適切に実施している。 各 EP における特徴的な活動を以下に示す。 【語学 EP 英語】「英語スキル I/II」では、シラバスとは別の授業案内により、成績評価方法を明確にするよう努めている[4b-26]。 【語学 EP 外国語】学習成果については期末試験を実施している。学期内での成果については、課題を出すことで、各学生の評価ができています。合格できる学生がほとんどであるが、数名の不合格者が出ていることがある[4b-27]。また、「魅力ある授業づくりのために」のアンケートを実施することで、学生が学びに対しての評価を見ることができている[4b-28]。 【健康とスポーツ】健康意識の啓発と運動習慣の定着を指導目的の柱としているので、個々の運動能力および運動技術の向上面における評価は行っていない。運動を通して身体的な面で健康だけでなく、他者とのコミュニケーションを取りながら協力して活動することにより、より良い人間関係を醸成して心(精神面)の健康も図れるよう授業を展開している。 【教養課題 EP 科学技術リテラシー】シラバス第三者点検にて成績評価の方法が書かれていることを確認している。学生による授業評価などを通して、極端な成績評価が行われていないことを確認している。 【特別課題】学習成果の測定を目的とした学生調査を行った[4b-29]。 【リベラルアーツ】ルーブリックを用いてレポート評価をしている授業がある[4b-30]。 【キャリア】学生の学習成果を適切に把握し評価することについては、授業内容策定に中心に関わった教員を中心に作成したアンケート調査を実施し、その結果については『中部大学教育研究』に発表している[4b-31][4b-32]。 【専門職 EP 日本語教員養成講座】日本語教員養成講座では、講座の最終段階である日本語教育実習終了時に振り返りをおこなった。また実習担当者からの意見なども聴取をした。学科会議で報告した[4b-33]。	

自己点検・評価項目	0406	教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。 (2)課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。 (3)外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。 (4)自己点検・評価の結果を活用し、教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。			
現状説明				
全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）では、年度ごとに教育活動の課題抽出と今後の方針を行っており、その作業の中で各 EP でも教育活動の振り返りと今後の対応の検討が実施されることから、教育課程およびその内容、教育方法の自己点検・評価は定期的に行われている。また、その作業の中で、受講者数や学生からの意見などが参考にされることから、適切な情報に基づいた検討を行っている [4b-9]。 各 EP における特徴的な活動を以下に示す。 【初年次】年に 2 回開催される担当者会において、スタートアップセミナーと入学前教育の振り返りなどを行っており、授業や入学前教育の改善・向上に向けた取り組みを継続している [4b-2]。したがって、教育方法の改善・向上に対して全学的に取り組む体制づくりを行っている。 【語学 EP 外国語】「魅力ある授業づくりのために」のアンケートを実施することで、学生が学びに対しての評価を				

見ることができている。それを次学期以降で活用している [4b-28]。また、中国語では中国政府が実施している HSK（漢語水平考試）と呼ばれる検定試験があり、そのチラシを配布し、資格取得を促している [4b-34]。

【語学 EP 日本語スキル】2024 年 3 月 26 日の「日本語スキル担当者会議（非常勤講師含む）」で、2023 年度における開講数、受講者数、不認定者数、未履修・再履修クラスの現状についての報告を行い、教育課程の適切性についての議論を行った。運営委員会でその報告を行った [4b-35]。各期第 10 週頃に行われる「日本語検定」の受検を促し、受講者個々の全体的な日本語の能力および中部大学全体の傾向の把握、評価に努めており、2022 年度第 2 回日本語検定において「日本商工会議所会頭賞」の団体表彰を、中部大学として受賞した [4b-36]。

【情報】教科書は毎年更新を行っている。また、更新後に行われた変更点については、授業で発見した教員からの情報が重要になる。寄せられた情報について、月例の会議等で議論を行い、必要に応じてメーリングリストで担当教員に情報共有を行っている [4b-37 p.36]。

【健康とスポーツ】必修科目「健康科学」において最終レポートで自由感想を書かせ、学生の意見を参考に授業での実施種目などの幅を広げている [4b-38]。また、多様な学生に対する対応方法について、各授業担当教員と学生とが相談しながら進めている。

【特別課題】教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んだ [4b-22] [4b-23]。特別課題教育科目「持続学のすすめ」において、SDGs を主題とする学生参加型の新しい教育方法を取り入れ、その成果について点検した [4b-29]。

【リベラルアーツ】相互授業参観や情報交換を密に行い、教育方法について各自が改善・向上に取り組んでいる [4b-39]。

【キャリア】キャリア教育科目の教育課程およびその内容、方法の適切については、定期的に授業担当者間の情報共有、意見交換を行っている。「社会人基礎知識」については、2023 年度入学生から開講されないため、2 年生以上の受講生のために継続して必要コマ数を開講し、受講対象学生が減るにつれて、徐々に開講数を減らしていく [4b-40]。「自己開拓」については、教育効果測定により、学生への肯定的な効果がみられたため、引き続き教員対象研修を通じた授業内容の改善と効果測定を実施している [4b-41] [4b-42]。

【専門職 EP 日本語教員養成講座】3 年生までの授業では各授業担当者が学生の学習状況を把握し、改善点などの意見聴取をしている。4 年生実習生は実習終了後にアンケートを行っている。学生からの要望を受け、講座で適宜改善策を検討している。日本語教員養成講座の構成員は日本語日本文化学科所属教員であることから、問題点や解決策などの報告は定期的に学科会議で行っている [4b-33]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0406	全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）では、年度ごとに教育活動の課題抽出と今後の方針を行っており、その作業の中で各 EP でも教育活動の振り返りと今後の対応の検討が実施されることから、教育課程およびその内容、教育方法の自己点検・評価は定期的に行われている [4b-1]。
項目 No. 0406	【初年次】スタートアップセミナーの改善・向上について、全学的に議論ができるような場（担当者会）を設定し、改善のための情報共有を行っている [4b-16]
項目 No. 0405	【語学 EP 英語】シラバスとは別の授業案内 [4b-26]
項目 No. 0405	【語学 EP 外国語】「魅力ある授業づくりのために」のアンケートを実施することで、学生が学びに対しての評価を見ることができている [4b-28]
項目 No. 0406	【健康とスポーツ】授業について学生からの自由感想 [4b-38]
項目 No. 0404	【教養課題 EP 科学技術リテラシー】学期毎の科目別の受講者数と単位取得率の調査 [4b-1]
項目 No. 0406	【リベラルアーツ】相互授業参観、常時授業公開の実施 [4b-39]
項目 No. 0405	【キャリア】継続的な教育効果測定の実施 [4b-31] [4b-32]
項目 No. 0406	【キャリア】授業内容改善のための教員対象研修の実施 [4b-41]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	【初年次】スタートアップセミナー・入学前教育の改善に向けた議論の実質化
今後の改善・向上方策	
スタートアップセミナー・入学前教育に関する情報共有や改善に向けて、年に2回担当者会を開催している。担当者会での議論を活発化し、各学科におけるスタートアップセミナー・入学前教育の状況を検討し、場合によっては改善を進める必要がある。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0405	【語学 EP 英語】評価方法を明確にしているが、その実施を点検する仕組みを構築する。
今後の改善・向上方策	
専任教員による会議で話し合い、評価方法の明確化と実施の点検に努める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	【語学 EP 英語】共通テストの改訂・刷新
今後の改善・向上方策	
共通テストの検証・点検を行う。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
【課題事項への対応状況】いくつか自己点検・評価で抽出された課題事項について対応を取り改善されている努力が明らかとなった。なお、今後さらに重要となる「入学前教育」については議論の場を作り出すことで教員の意識を高めているところで終わっており、入学前教育参加生徒数の減少学科や入学前教育の効果検証などを通しての抜本的な解決策の検討が必要である。また、自己点検評価を継続的に言い改善する組織（しくみ）の整理については、各 EP の自己点検・評価だけでなく、人間力創成教育院・全学共通教育委員会としての総括が望まれる。 [0404] 「スタートアップセミナー」の合格率の各学科平均は 95－100%として公平性が維持できていると判断できるが、「S、A、B、C」の評価のばらつきについては検証されていない。同一科目であることと、本授業が DP・汎用力の内容からも教養や知識・技能を主としてはおらず、学び続ける能力や多様性、協調性などの態度を達成目標としていることから、学科（担当教員）によるばらつきについては検証する必要がある。 基準 4（4b）課題事項の 0407 「履修希望者の多い科目と少ない科目に関する対処」についてヒアリングにおいて、「一方、履修希望数の少ないことで問題となることはなく、一部外国語科目では受講者数が少ない科目もある。」の記載間違いを確認し、本文章を削除することとなった。 0407 全学共通教育委員会では年度ごとに教育活動に関する振り返りが行われ、課題の抽出と解決策および全学的な要望等が検討されており、教育改善の仕組みが整っていると言える[4b-1]。各 EP においても教育改善の取り組みが組織的に行われている[4b-2・4b-3・4b-4]。 0407 全学共通教育委員会、各 EP とともに自己点検評価を継続的に言う仕組みが確立されており、実施されている[4b-9・4b-2・4b-28・4b-35・4b-38・4b-22・4b-23・4b-29・4b-39・4b-41・4b-42・4b-33]。 0407 受講希望者の多い科目では、2024 年度以降遠隔講義の実施、クラス数を増やすなど、受入れ人数の増加を図るべく適切に対応されている[4b-6・4b-7・4b-8]。 0407 日本語教員養成講座プログラムの改善については今後の継続課題となっている。また日本語教育実習の改善

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 人間力創成教育院

基準 6 教員・教員組織

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0602	課題となっている専任教員数・教員配置等の教員編制に先立ち、各 EP 単位で「科目の精選」等は実施され、人間力創成総合教育充実検討委員会専門委員会にて全体的な調整を行っている[0602g]。今後は、適切な組織運営ができるよう検討を重ね、センターとしての授業運営や教員配置、人事等の在り方の考えをまとめて頂きたい。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
人間力創成教育院の人事の在り方について、2022 年には人事に関する、2023 年には昇格基準に関する申合せを行った [6-1] [6-2]。また、各 EP においても、教育活動を継続するための人事を検討している。例えば、 【初年次】初年次 EP の委員の増員や交代について継続して議論してきた。議論の継続と今後の展開を意識して、2024 年度には新たに 2 名の教員が参加するよう検討を行った [6-3]。 【教養課題 EP 科学技術リテラシー】科学技術リテラシーの各科目について、実施者が実施主体の責任ある立場の方（例えば、副学部長や学科主任）に世話役になってもらうと共に、人間力創成教育院の兼務としている [6-4]。これより、問題共有および改善向上のための組織づくりを行っている。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0602	本学における全学共通教育の体制およびセンターの教員組織に関する抜本的改革が望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
現在、大学全体の人事の在り方が示されている。この流れの中で、全学共通教育の実施体制についての検討が必要である。この件は継続して議論し、大学と連携して方針を出す必要がある。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0601	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。	自己評価	B
評価の視点	(1)大学として求める教員像や教員組織の編制方針に基づき、教員組織を編制しているか。 ※具体的な例 ・教員が担う責任の明確性。			

	・法令で必要とされる数の充足。 ・科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成。 ・各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理。 ・複数学部等の基幹教員を兼ねる者について、業務状況や教育効果の面での適切性。 (2)クロスアポイントメントなどによって、他大学または企業等の人材を教員として任用する場合は、教員の業務範囲を明確に定め、また、業務状況を適切に把握しているか。 (3)教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。 (4)授業において指導補助者に補助または授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。
現状説明	
人間力創成教育院として、現状では、全学教育の教育活動を実施できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育が実現できている。しかし、全学共通教育科目の担当者数が少ないことから相当の負担が生じている現状がある。現在の大学の人事計画の中で、今後の全学共通教育とその実施に関する検討を行う必要がある。教員の採用や昇格の人事は、統括調整企画会議（調整企画会議）で議論し、実施している [6-5]。 なお、EP における課題を以下に示す。 【語学 EP 日本語スキル】現状の専任 2 名のスタッフのみでは語学 EP 日本語スキルが組織として諸業務（年間約 70 コマの授業運営、日本語検定運営など）を果たすことが苦しい状態である。人間力創成教育院事務室とは授業や日本語検定の運営について十分に協働・連携している。日本語検定の申し込みについて、従来の紙ベースから web 申し込みに切り替え、事務量の大幅な削減を行った [6-6] [6-7]。中部大学準会場での日本語検定について、関係部署と連携して実施している [6-8]。 【健康とスポーツ】EP 内で役割を決め、分担しながら円滑に組織運営できるようにしている [6-9]。必修科目である「健康科学」の担当コマ数が多くなり、専任教員それぞれの専門種目でのスポーツ科目の開講ができていない [6-10]。 【リベラルアーツ】2023 年度で授業担当を終了する協力教員が 4 名いたため、2024 年度の「リベラルアーツ課題演習」正式開講に向け、組織の充実を図り学生の学習効果を高めるため、協力教員を 3 名増やした [6-11]。 【専門職 EP 教職課程】全学共通教育委員会にて毎年度末に各教育プログラムの活動報告を行なう中で、教員組織の体制と課題を報告している。2023 年度理工学部設置に伴う受講者増に備えるとともに、法令に定められた人員枠を拡充するため、2023 年度に 1 名の新規採用人事を上申し認められた。これにより、2023 年度末には、専任教員 1 名を追加した教職課程認定「変更届」を提出した [6-12] [6-13]。 2024 年度より教職課程の専任教員は 5 人となったが、教職課程を履修する約 400 名の学生の教師になりたいという希望を叶えるには実務家教員の配置が欠かせない。現在は支援員という形で関与してもらっているが、今後より学生指導に関わってもらえる仕組みを整えていく必要がある。 【専門職 EP 日本語教員養成講座】専門職 EP（日本語教員養成講座）の構成員 2 名は日本語日本文化学科の教員で、講座を兼務している。2023 年度の日本語教育実習は学内は 8 月下旬から 9 月上旬の 2 週間、海外派遣は 10 月末に 10 日間実施した。教育実習担当者は準備や担当教員との会議、国際センターとの連携により充実した実習をおこなうことができた。コーディネイト教員の負担が大きくなりすぎないように注意しなければならない [6-14] [6-15] [6-16]。日本語教員養成講座の関連科目を担当する教員（学内兼務および非常勤講師）と関係する部局事務職員との教育懇談会を開催し、2023 年度の振り返りおよび登録日本語教員についての情報を共有した [6-17]。	

自己点検・ 評価項目	0602	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。	自己 評価	B
評価の視点	(1)教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準および手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。 (2)年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。			
現状説明				
人間力創成教育院の人事の在り方について、2022 年には人事に関する、2023 年には昇格基準に関する申合せを行った [6-1] [6-2]。また、各 EP においても、教育活動を継続するための人事を検討している。教員の採用や昇格の人事は、統括調整企画会議（調整企画会議）で議論し、実施している [6-5]。				

各 EP の状況は以下のとおりである。

【初年次】初年次 EP のメンバーである教員の昇格について適切に行った [6-18]。また、初年次 EP の委員の増員や交代について継続して議論してきた。活動に関する議論の継続と今後の展開を意識して、2024 年度には新たに 2 名の教員が参加するよう検討を行った [6-3]。

【語学 EP 外国語】ドイツ語を担当する専任教員がおらず、非常勤講師の選定に苦慮することが予想される。教員の交代が発生する年度にあたる度に、開講曜日・時限に見合う非常勤講師を探すことに多くの時間が割かれる [6-19]。

【健康とスポーツ】教員の募集に関しては人間力創成教育院長と相談しながら、計画書・上申書を基に進めている [6-20]。採用や昇任の人事に関しては、EP での基準や人間力創成教育院での基準に沿っておこなわれている [6-1] [6-2]。

【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】本務とする教員の補充はない。また、たとえば、心理学など総合大学における全学共通教育科目として受講希望が多いものの、心理学を専門とする学内教員は学科での用務が多いため全学共通教育への協力を得るのが困難な状況にある [6-21]。

【教養課題 EP 科学技術リテラシー】専任教員の年齢構成（60 代教授 2、50 代准教授 1）は概ね適切であると考えている。[6-4]。

【リベラルアーツ】教員の外部からの新規採用はないが、協力教員の授業担当配置に関しては、科学系、人文系、社会系に授業を分け、それぞれの専門の教員と専門外の教員がペアになるように、またできるだけ異なる性別・年齢の教員がペアになるように、授業担当を決めている [6-22]。

【専門職 EP 日本語教員養成講座】日本語教員養成講座に所属する構成員 2 名は日本語日本文化学科の兼務である。講座の科目は日本語教育実習以外、すべて学科の専門科目で構成されている。日本語教育実習については、できれば本講座専属教員で指導するのが望ましいが、夏季集中期間の実習指導は現場の現役日本語教員で日本語教員養成にも携わっている非常勤講師が担当した。また海外教育実習指導については、専任教員が担当し、実習生を台湾まで引率した [6-15] [6-16]。

自己点検・評価項目	0603	教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	自己評価	B
評価の視点	(1)教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発および改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (2)教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (4)教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になされるよう図っているか。			
現状説明				
全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）における授業改善の PDCA や委員会における授業改善の議論があることから、授業改善の取り組みが組織的に行われている [6-23]。また、各 EP において、授業改善に関わる取り組みが行われている。ただし、教員の研究活動や社会貢献は活発に行われているが、その向上のための組織的な取り組みは十分でないことから、今後検討する必要がある。 なお、各 EP の特徴ある取り組みを以下に示す。 【初年次】初年次 EP の活動の改善・向上、活発化については、EP 会議で議論を行っている。また、初年次教育科目スタートアップセミナーや入学前教育の改善・向上、活性化については、担当教員が集う担当者会を年 2 回開催し、そこで議論を進めるよう配慮している [6-24] [6-25]。 【語学 EP 英語】EP 会議および非常勤講師懇談会で行っている [6-26]。 【語学 EP 外国語】韓国語ではチューデントアシスタントを採用している。採用の際は、語学能力などの適性および授業運営の研修を行っている [6-27]。 【語学 EP 日本語スキル】年 2 回（春学期前、秋学期前）の非常勤講師との打ち合わせにおいて、授業方法の研修、意見交換の機会を設けている [6-28]。 【健康とスポーツ】EP 内の教員は課外活動の指導を通して、研究活動や社会貢献、地域貢献活動をおこなっており、今後さらに拡大していきたい [6-10]。 【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】他の EP や学部学科で新設された授業などについては積極的に協力するようにしている [6-29]。				

【教養課題 EP 科学技術リテラシー】科学技術リテラシーを通観した、教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みは行えておらず、各科目の実施主体の自発的な行動に任されている。
【リベラルアーツ】2023 年 11 月 8 日に FD 活動の一環として「中部地区におけるリベラルアーツ教育の現状と課題」というテーマで勉強会・討論会を実施し、外部からも発表者を招いて、教員の意識と資質の向上を図った [6-30]。
【キャリア】教員の教育能力の向上については、「自己開拓」担当教員を対象とした研修を実施している [6-31][6-32]。
【専門職 EP 教職課程】FD 活動については『教職課程年報』を毎年度末に発行し、非常勤講師にも発表の場を提供し、教職課程認定への備えを行なっている。しかし、コロナ禍で中断してしまっているものもある。教職の最新動向や法令などの学びを組織的に行っていく必要がある [6-33]。
【専門職 EP 日本語教員養成講座】日本語教員養成講座の教育活動の一環として、春日井市が実施している「かすがいふれあい教室」という日本語教室で日本語クラスを見学して地域連携活動をおこなった [6-34]。

自己点検・評価項目	0604	教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）が授業運営にかかわる検討を行い、定期的に点検・評価している [6-23]。さらに、教員の採用や昇格の人事は、統括調整企画会議（調整企画会議）で議論し、実施している [6-5]。なお、各 EP では、以下のように人事などの検討を行っている。 【初年次】初年次 EP 会議は月 1 回の頻度で開催している。その場において、必要に応じて、教員組織に関わる事項を点検・評価している [6-24]。 【語学 EP 日本語スキル】専任 2 名の体制では限界があり、まずは現状の業務を適正かつ円滑に持続させることに一生懸命の状態である。 【健康とスポーツ】EP 内での業務の役割について、年度ごとに振り分けや変更をおこない、すべての教員が理解を深めるようにしている [6-9]。 【教養課題 EP 科学技術リテラシー】科学技術リテラシーの構成教員の大半が兼務であり、そのうちの多くは、比較的短期間で兼務を外れていく。このため、科学技術リテラシーの教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいける体制にない [6-4]。 【専門職 EP 教職課程】人間力創成教育院においては、毎年度末に活動報告書を作成し、教員組織に関わる事項についても点検を行っている。また、教職課程自己点検評価に取り組み、報告書も公開している。その結果を活用しながら、改善・向上に今後も継続的に取り組んでいく [6-12] [6-35]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0602	人間力創成教育院の人事の在り方については、2022 年に設定し、昇格に関わる覚書も設定した。また、各 EP においても、教育活動を継続するための人事を検討している [6-1] [6-2]。
項目 No. 0603	【初年次】初年次教育科目スタートアップセミナーや入学前教育の改善・向上、活性化については、担当教員が集う担当者会を年 2 回開催し、そこで議論を進めるよう配慮している [6-24] [6-25]。
項目 No. 0603	【語学 EP 英語】非常勤講師懇談会 [6-26]
項目 No. 0603	【語学 EP 外国語】韓国語ではチューデントアシスタントを採用している。採用の際は、語学能力などの適性および授業運営の研修を行っている [6-27]。
項目 No. 0601	【語学 EP 日本語スキル】日本語検定 web 申込実施による大幅な事務量の削減 [6-6] [6-7]

項目 No. 0603	【健康とスポーツ】EP 内すべての教員が毎日課外活動の指導をおこなっている [6-10]。
項目 No. 0603	【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】他の EP や学部学科で新設された授業などについては積極的に協力するようにしている [6-29]。
項目 No. 0603	【リベラルアーツ】秋の FD 研究会の開催[6-30]
項目 No. 0603	【キャリア】教員の教育能力の向上について「自己開拓」担当教員を対象とした研修の実施 [6-31] [6-32]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0601	【健康とスポーツ】各教員の適切な担当授業科目について
今後の改善・向上方策	
必修科目である「健康科学」の担当コマ数が多くなり、専任教員それぞれの専門種目でのスポーツ科目の開講ができていないため、科目の精選をおこないつつも、非常勤講師も含めた教員数の増加や必修科目と選択科目の再検討が必要である。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0601	【教養課題 EP 科学技術リテラシー】専任教員の拡充
今後の改善・向上方策	
現在科学技術リテラシーが、9 科目、年間 71 コマ、約 7000 人の総受講者に講義を提供できているのは、講義の実施主体の学部・学科・担当の先生方の協力のおかげである。この協力体制の維持・発展のためにも、長期にわたって科学技術リテラシーにかかわり、現状を的確に把握できる専任教員の拡充が望まれる。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021~2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 人間力創成教育院

基準 7 学生支援

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	心身の障がいや発達障害、学習障害などの問題をかかえた学生の状況について、所属学科の教員と共通教育科目担当者との間で情報共有がなされていない可能性がある。今後、情報共有のための連携をプライバシーに配慮しつつさらに強化する事が望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
心身の障がいや発達障害、学習障害などの問題をかかえた学生の指導に関しては、学内の仕組みである就学上の配慮申請の依頼に準じて行うこととし、その指導において問題があった場合には、学生サポートセンターや学生相談室、担当学科との打ち合わせを行うことを確認している [7-1]。 なお、各 EP の特徴ある取り組みを以下に示す。 【初年次】スタートアップセミナーにおける、心身の障がいや発達障害、学習障害などの問題をかかえた学生の対応は、スタートアップセミナー担当教員、学生の所属学科、学生サポートセンターと学生相談室で協議し行っている。初年次 EP では、担当者会などを活用して、学生相談室など学生支援に関する情報を発信している [7-2]。 【語学 EP 外国語】毎学期はじめに、学生相談室から、配慮が必要な履修学生について各授業担当者に連絡がある。外国語 EP では、各授業担当者に対処を任せてきた。今後は積極的な FD セミナーの受講を促すなど、EP 全体で一層の意識の広報をはかる必要がある。 【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】学生サポートセンターを介して、プライバシーに配慮したかたちで、「修学上の配慮依頼文書」が届く体制が整っており、人文・社会リテラシー科目担当教員間で対応について意見交換するようにしている [7-3]。また、学生支援を適切におこなうために、合理的配慮についても、教員間においても理解を深めるべく、学内の学ぶ場を利用している [7-4]。 【教養課題 EP 科学技術リテラシー】学生サポートセンターからの正式な要請に基づき、学生への個別の配慮を行っている。所属学科の教員から科学技術リテラシーの担当者との間での直接の情報共有のための連携手段は準備していない。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	問題をかかえた学生の状況を、当該学生が所属する学部学科の教員と、共通教育科目(例えば、健康とスポーツ EP)を担当する教員との間で情報共有を行うなどの連携強化。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学生相談室、学生を担当する教員、当該学生が所属する学部学科教員との3者間で情報共有を図り連携を強化している [7-5]。また、上記のように関連する課題を教員会議で議論している [7-1]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0703	学習支援の適切性の定期的な自己点検・評価
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
全学共通教育委員会および教員会議では、学習支援に関する議論を行っている。ただし、十分ではないので、今後も引き続き行う必要がある。	

☑ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0703	教員同士のコミュニケーションづくりに関する再検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
ここ数年はコロナ禍の影響を受けて、教員同士のコミュニケーションづくりが弱まっていた。今後は、十分なコミュニケーションができる機会を増やし、教育改善に関する意欲を高め、情報共有を進めていく必要がある。	

☑ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0703	自己開拓 SA 対象の事前研修だけでなく、事後の振り返り研修の必要性
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
SA は謝金の発生する時間雇用という側面もあるため、時間をオーバーすることがないように注意しつつ、現在のところ、授業後に教員との振り返りの時間を設けるようにしている。SA 自身が同じ授業を受講したときと比べて、受講生の様子を客観的にみてどのように感じたか、SA の業務とは別に授業内で記録してもらい、それをもとに担当教員と振り返ることで SA 自身の自己開拓にもつながるようにしている [7-6]。それら、SA 自身が感じたことや意識の変化などについては、振り返るだけでなく、適宜、現在の受講生にも話す機会を設けている。全授業終了後は試験期間をへて春休みに入るため日程調整が簡単ではないが、SA 同士が全授業終了後に集まり、相互に全体で振り返ることによって新たな学びも期待できる。複数の SA が参加する事後研修の実施について、翌年度の SA 事前研修とあわせておこなう可能性も含め、ひきつづき今後の EP 会議および教員会議で考えていきたい。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0701	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。	自己評価	B
評価の視点	(4) [修学支援（学習面）] 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。 (5) [修学支援（学習面）] 障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。 (6) [修学支援（学習面）] 学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応しているか。 (8) [修学支援（学習面）] ICT を利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っているか。 (14) [学生の基本的人権の保障] ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応など、学生の基本的人権の保障を図る取り組みを行っているか。			
現状説明				
人間力創成教育院の一部の教員が、学習支援室を運営している [7-7]。また、心身の障がいや発達障害、学習障害などの問題をかかえた学生の指導に関しては、学内の仕組みである就学上の配慮申請の依頼に準じて行うこととし、その指導において問題があった場合には、学生サポートセンターや学生相談室、担当学科との打ち合わせを行うことを確認している。 また、各 EP の特徴的な活動を以下に示す。 【語学 EP 英語】学習支援室や SI ルームの利用を促している [7-7] [7-8]。 【語学 EP 日本語教育】修学支援が必要な留学生に対し、担当教員間で連絡を取りつつ、支援内容を相談決定し、実				

施した。その結果、教員間で情報共有がなされ、協力して学習支援を行うことができ、対象学生の単位習得に繋がった [7-9]。 【語学 EP 日本語スキル】原則として秋学期に5 クラス、日本語スキル A 単位不認定者に対する再履修クラスを設置している。毎学期5 回目の授業終了後、2 回以上欠席した学生を把握し、学科主任への出席不振者の連絡を行っている [7-10]。 【情報】「情報スキル入門」の第3 回目の授業で、電子メールを適切に書くことができるように指導しており、質問や疑問がある場合は、授業時間外でも積極的に担当教員に電子メールを使って質問ができるよう伝えている。授業内で実習を行うため、ティーチングアシスタント制度を活用し、学生支援を行っている。実習がうまく進まないなど問題が発生したときは、ティーチングアシスタントに助けてもらうようにしている [7-11]。 【健康とスポーツ】担当科目におけるクラス内で障がいなど配慮が必要となる学生に対して、教員と学生とで相談をおこない、できる範囲で実技に取り組めるよう柔軟に対応している。また、EP 内で意見交換を行い、対応策を考えたり、学生相談室および学生サポートセンターと連携を取っている [7-12] [7-13]。 【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】学生サポートセンターを介して、プライバシーに配慮したかたちで、「修学上の配慮依頼文書」が届く体制が整っており、人文・社会リテラシー科目担当教員間で対応について意見交換するようにしている [7-3]。また、学生支援を適切におこなうために、合理的配慮についても、教員間においても理解を深めるべく、学内の学ぶ場を利用している [7-4]。 【教養課題 EP 科学技術リテラシー】学生課・学生サポートセンターからの正式な要請があった場合は、これに基づき、学生への個別の配慮を行っている。理解度の十分でない学生に対しては、大学が学習支援室を用意している。科学技術リテラシーの一部の教員が、学習支援室の活動に参加し、学習指導を行っている [7-7]。また、学習支援室に対して、担当者の紹介を行っている。お互いに忙しい教員と受講生のために、ICT を積極的に活用し、例えば Google Classroom などの Learning Management System を利用して、学生とのコミュニケーションや成績把握に役立てている。 【特別課題】学生サポートセンターから通知される「修学上の配慮を申し出た学生への対応について」に基づき、必要な配慮を実施している。現時点では問題は生じていないが、特別課題教育科目の性質（授業形態）上、現在の担当教員のみでは「配慮」が不可能な事態も懸念されている。サポートスタッフの増員等の課題が残されている。 【リベラルアーツ】CAAC（アクティブアゲイン）卒業生を授業補佐として採用し、学生の授業理解サポートをしてもらうようにした [7-14]。 【キャリア】修学支援としては、「自己開拓」において授業担当教員と受講学生の間を取り持つ役割を担う SA（ステューデント・アシスタント）を採用している。SA に対しては、教務支援課による事前・事後研修と併せて、キャリア EP として事前研修をおこなっている [7-15][7-16]。 【専門職 EP 日本語教員養成講座】学生サポートセンターと協力して、支援が必要な学生に適切な支援を行っている。また、SA 制度を活用して、授業内での学生の支援を行っている [7-17]。	
---	--

自己点検・評価項目	0702	学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
学生支援に関する問題が生じた場合には、全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）や教員会議において、課題を整理して対応を議論している。また、心身の障がいや発達障害、学習障害などの問題をかかえた学生の指導に関しては、学内の仕組みである就学上の配慮申請の依頼に準じて行うこととし、その指導において問題があった場合には、学生サポートセンターや学生相談室、担当学科との打ち合わせを行うことを確認している [7-3] [7-5]。 また、各 EP の特徴的な活動を以下に示す。 【語学 EP 英語】学習支援室の教員を非常勤講師懇談会に招き、現状を把握するよう努めている [7-18]。 【語学 EP 日本語スキル】非常勤講師会議や兼担会議で、履修に困難を抱える学生について討議し、情報の共有とよりよい対処法についての意見交換を行っている [7-19]。 【特別課題】学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいる[7-20][7-21]。				

【キャリア】授業内容についての意見交換を定期的実施する EP 会議で行い、学生への不適切な対応がないかどうかの確認とともに、グループワークの運営における課題解決に関する意見交換を行っている[7-22][7-23]。
 【専門職 EP 教職課程】教職課程自己点検評価に基づき、点検評価を行っている。また点検評価は継続的にやっていくことになっており、課題を見出し、改善向上に取り組んでいく [7-24]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0701	【語学 EP 英語】学習支援室、SI ルームの利用を促している [7-7] [7-8]
項目 No. 0701	【語学 EP 日本語スキル】再履修・未履修クラスの設置、各学科主任に対する出席不振学生のお知らせ(学期途中) [7-10]
項目 No. 0701	【教養課題 EP 科学技術リテラシー】 Learning Management System を利用した受講生との講義時間にとらわれないコミュニケーション手段の確立
項目 No. 0701	【リベラルアーツ】 CAAC 卒業生の授業協力採用[7-14]
項目 No. 0701	【キャリア】 自己開拓 SA 対象研修の実施 [7-15] [7-16]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み(予定)および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0701	修学上の合理的配慮について
今後の改善・向上方策	
「修学上の配慮を申し出た学生への対応について(お願い)」の知らせは、学生サポートセンターより届けられるが、その特性上、授業担当者にのみ周知される。周知があった担当者からのヒアリングなど、どのような対処を行ったかを知ることができていない。今後は、当該学生の情報を含めないかたちで、どのように対応したのかなどの情報を収集する。その方法についても検討が必要である。 合理的配慮が必要な学生の中にも個人差が大きいため、うまく対応できないケースについては、学生サポートセンターとより一層連携を強化していく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0701	【キャリア】 自己開拓 SA 対象の事前研修だけでなく、事後の振り返り研修の必要性
今後の改善・向上方策	
自己開拓については、SA 対象の事後研修も実施した方が、学生への学びが大きい可能性があるため、今後検討していきたい。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
0701 学習支援体制については、人間力創成教育院の一部の教員が、学習支援室(数学、英語、物理、化学)を運営している。また、外国語においては、SI ルーム(Self-Instruction room)が平日開室されているなどが整備さ

れている [7-7] [7-8]。TA や SA 制度についても活用されている。特に、「自己開拓」の授業では教務支援課による事前事後研修に加えてキャリア EP としても事前研修を実施している [7-15] [7-16]。 合理的配慮が必要な学生については、前回のピアレビュー結果の留意点の対応でも所属学科の教員と共通教育科目担当者との情報共有がなされている。一方で、TA、SA に対する教員の指示の方法（どのような時に、どこまで伝えるかなど）の教員間の情報共有をヒアリング時に確認したところ、必要と判断した担当教員が EP 会議で相談するとの回答であった。そうした TA、SA を含めた合理的配慮の対応の共有は、人間力創成教育院だけでなく全学的なルールが必要である。	
長所・特色	
0701 【語学 EP 英語】学習支援室、SI ルームの利用を促している [7-7] [7-8]。 0701 「自己開拓」の授業では教務支援課による事前事後研修に加え、キャリア EP としても独自の科目に沿った事前研修を実施している [7-15] [7-16]。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
P7-1	メールを使った質問の件数	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021~2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 人間力創成教育院

基準 8 教育研究等環境

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	非常勤講師からの意見を吸い上げているのは語学 EP のみであり、他の EP においても非常勤講師からの意見を吸い上げる方法について検討が望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
非常勤講師からの意見を抽出し、授業改善を行うことはそれぞれの EP で検討されている。例えば、【教養課題 EP 科学技術リテラシー】では、科学技術リテラシーのいくつかの科目の講義担当者に向け、常勤・非常勤を問わず、ZOOM を用いて「Web お茶会」と称する週に一度の会合への参加を促し、講義に置いて困ったこと、要望などの吸い上げを行っている [8-1]。ただし、全学共通教育全体の取り組みになっていないことから、引き続き検討を行う必要がある。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	ネットワークなど大学の設備に起因する問題について大学と連携する必要がある[0806f]。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）では、年度ごとに教育活動に関する振り返りを行い、次年度の活動方針を検討している。その中で教育環境に関する議論も行っている [8-2]。さらに、人間力創成教育院の院長は副学長が兼務しており、院長補佐は教務委員会・学生委員会、ICT 運営委員会などの全学的な会議に参加している [8-3]。ネットワークなど教育環境に関する問題が生じた場合は大学と連携して対応する仕組みが備わっている。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0804	教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教育研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				

全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）では、年度ごとに教育活動の振り返りを行い、次年度に向けての活動方針を検討している。その中では、教育環境についても議論している [8-2]。したがって、教育環境に関わる状況を定期的に点検・評価しているとともに、教育環境の改善も行われている。

なお、各 EP における特徴的な取り組みを以下に示す。

【初年次】スタートアップセミナーの準備として、開催に関わる教室・設備のアンケートを行っている。その中で、学科の要望について対応している [8-4]。

【語学 EP 英語】CALL 教室の定期的なメンテナンスを関係部署に依頼する。

【語学 EP 外国語】SDGs を重視し多様性を尊重する大学にふさわしい、多言語教育を行っている授業であるため、その責務を自覚し、日々学生に身近な言語教育を行うべく、折に触れて話し合っている [8-5]。

【語学 EP 日本語スキル】日本語スキル控室に、授業準備や授業に必要な備品・資料の新規購入、および補充を行っている。

【情報】EP 会議で議論して、必要であればプロジェクタ、ネットワーク、電源を整備した講義室の増設などを希望するなどの行動をとっている [8-6 p.48]。

【健康とスポーツ】メインアリーナ、サブアリーナ、武道体育館、トレーニング室、卓球室、ダンス室、室内プール、メイングラウンド、サブグラウンド、野球場、テニスコート、弓道場、アーチェリー場と体育施設は充実している。特にトレーニング室に関しては 2022 年夏にトレーニングマシンの入れ替えがおこなわれた。

また、授業で使用する施設については、授業ごとに必要な用具を各授業担当者がそれぞれの倉庫で管理している [8-7]。

【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】個々人の研究室を除けば、組織としての実験室や会議室をもっていないが、個々人の研究テーマに沿って海外などでフィールドワークを実施し、その成果を授業や、図書館などの学内共有スペースを有効に活用した一般の方々への成果発表などを効果的に行っている [8-8] [8-9]。

【教養課題 EP 科学技術リテラシー】「Web お茶会」で上がってきた、疑問・要望については、大学の担当部署に問い合わせ、できる限り速やかに回答、対応を行うようにしている [8-1]。

【特別課題】教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいる [8-10] [8-11]。

【リベラルアーツ】学期開始時と終了時に、創造的リベラルアーツセンター運営会議において、授業担当者がそれぞれ報告を行い、教育研究環境に関わる情報を共有し、必要に応じて各自改善をしている [8-12]。

【キャリア】教育研究等環境に関わる事項については、EP 会議などにおいて議論を行い、現状や成果の把握、問題点の改善・向上させるべき点を所属教員で共有している [8-13] [8-14]。

【専門職 EP 教職課程】教職課程自己点検評価に基づき、課題を見出している。今後はその課題について学部学科と連携しながら取り組んでいくことが大事である [8-15]。

【専門職 EP 日本語教員養成講座】教育研究環境に関わり事項について、問題点を検討し改善・向上への取り組みを 2021 - 2025 年の中期計画として検討した [8-16]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0804	【語学 EP 外国語】多言語教育を行っている授業である [8-5]。
項目 No. 0804	【健康とスポーツ】学内における体育施設の充実 [8-7]
項目 No. 0804	【教養課題科学技術リテラシー】ICT を活用した、定期的なミーティングによる現状把握と疑問・要望の吸い上げ [8-1]。
項目 No. 0804	【リベラルアーツ】創造的リベラルアーツセンター運営会議における報告・情報共有 [8-12]
項目 No. 0804	【キャリア】EP 会議などにおける現状や成果の把握、問題点の改善・向上させるべき点の共有 [8-13] [8-14]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0804	【語学 EP 英語】CALL 教室
今後の改善・向上方策	
CALL 教室の定期的なメンテナンスを関係部署に依頼する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0804	【健康とスポーツ】サブアリーナの空調設備について
今後の改善・向上方策	
屋内体育施設では、サブアリーナのみ空調設備がない状況となっており、気温が高い時期（6・7・9月）は熱中症予防として15～20分おきに水分補給の時間を設けるなど対策を行った。安全に実技を行うためには空調設備が必要だと考えている。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
前回の課題事項 0806 語学 EP 以外の EP にも、非常勤講師からの意見の吸い上げについては検討課題として前回挙げられており、これに対し【教養課題 EP 科学技術リテラシー】などの zoom を使った会合を持つなど、取り組みがなされている [8-1]。ただし、全学共通教育全体の取り組みになっていないことから引き続き、検討の必要性を認識されている。 0804 全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）では、教育環境についても議論されているとある。サブアリーナの空調設備については、一つの EP としてではなく、人間力創成教育院として学長ヒアリングに挙げるなど対応が望まれる。	
長所・特色	
特になし	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項	
前回の課題事項 0806 非常勤講師からの意見の吸い上げについて改善は進んでいるものの、全学共通教育全体の取り組みになっていないことから引き続き、検討が望まれる。【B】	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021~2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 人間力創成教育院

基準 9 社会連携・社会貢献

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	人間力創成総合教育センターの組織としての社会連携・社会貢献であることを発信する機会を増やすことが望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
人間力創成教育院として、社会連携・社会貢献に関する実績ある取り組みが行われているが、情報発信が十分にできておらず、今後も検討する必要がある。なお、EP では下記のような状況がある。 【健康とスポーツ】では、各教員が指導している課外活動において優秀な成績を収めるなど実績を残している（特にハンドボール）が、人間力創成教育院としての発信はおこなっていない。また、【教養課題 EP 科学技術リテラシー】では科学技術リテラシーの紹介パネルを製作し [9-1]、Web ページやオープンキャンパスなどで展示している。さらに、大学が行っている地域連携・生涯学習活動である、エクステンションカレッジに開講科目を提供している [9-2]。大学が参加している、愛知学長懇話会の単位互換事業に開講科目を提供している [9-3]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0901	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。 (2)社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。			
現状説明				
人間力創成教育院の教員は、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施している。 社会連携・社会貢献に関する各 EP の特徴的な取り組みを以下に示す。 【語学 EP 英語】専任教員により、高大連携科目（英語スキル）が開講されている [9-4]。 【語学 EP 外国語】専任教員の中に、春日井市多文化共生審議会に参加し、外国籍者に対して住みやすいまちづくりの提言を行っている[9-5]。また、学内にある CAAC（アクティブアゲイン）で、講義「東アジアの言語と文化」を担当し、外国語の指導を行っている[9-6]。				

【語学 EP 日本語スキル】日本語検定の問題作成について、検定委員会への提言・助言を行った。
【健康とスポーツ】指導している課外活動において運動教室を担当するなど、地域貢献活動を行った [9-7]。今後も要望があれば積極的に取り組んでいく。
【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】教養課題 EP（人文・社会リテラシー）は本務とする専任教員は3名の組織だが、研究成果について「人間力創成教育シンポジウム：中部大学のフィールド科学」を学内で実施し、広く一般の参加者へ成果を公開している [9-8]。また、本人の研究活動のみならず社会貢献活動を国内外で実施している。IUCN（国際自然保護連合）の専門家グループ内で構成されるワーキンググループで、野生チンパンジーの保全活動にとりくみ、そこでとりまとめた意見について英文学術雑誌に公表している [9-9]。西アジアにおける遺跡の保護について文化庁と連携し、その成果を国内でも展示を通じて地域社会に還元している [9-10]。
【教養課題 EP 科学技術リテラシー】大学の行っている、地域連携・生涯学習活動である、エクステンションカレッジに開講科目を提供している [9-2]。また、大学が参加している、愛知学長懇話会の単位互換事業に開講科目を提供している [9-3]。
【特別課題】特別課題教育科目「地域共生実践」を通して、地域連携・地域貢献に関する取り組みを実施している [9-11]。
【リベラルアーツ】2023年11月8日にFD研究会を開催した際に、近隣二大学の関係者の合意が得られ、「中部地区リベラルアーツ教育研究コンソーシアム」が発足した[9-12]。
【キャリア】社会連携・社会貢献に関する取り組みについては、「社会人基礎知識」において、キャリアコンサルタントとしての実務経験を持つ教員による科目担当や、外部講師による講演実施などにより、学外機関、地域社会との連携をおこなっている[9-13][9-14]。
【専門職 EP 教職課程】教員免許状更新講習が廃止になったことに基づき、社会貢献する場は当面なくなっているが、今後どのようなことが可能であるか検討を行っていく。
【専門職 EP 日本語教員養成講座】地域社会連携の取り組みの一環として、春日井日本語ボランティア教室に日本語教員養成講座の受講生が授業見学にうかがった。また 2024 年度から有志学生が日本語ボランティアとして高蔵寺教室に参加する計画もある [9-15][9-16]。中部圏で日本語教育をおこなっている日本語学校に来学いただき、3、4年生向けの日本語学校教員説明会を開催した [9-17]。

自己点検・評価項目	0902	社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
人間力創成教育院の教員は、社会連携・社会貢献活動を実施しているが、組織としての点検・評価、改善・向上に関する取り組みは十分でない。この点は今後の課題となる。 なお、各 EP における社会連携・社会貢献の点検・評価、改善・向上に関する取り組みを以下に示す。 【健康とスポーツ】社会連携・社会貢献について定期的に点検・評価は行っていない。個々において各教員のスポーツの専門分野を通して社会貢献に取り組んでいる [9-18]。 【教養課題 EP 人文・社会リテラシー】「人間力創成教育シンポジウム：中部大学のフィールド科学」や西アジアにおける文化庁との保全活動の関する展示については、参加者からのコメントや反応を確認し、それらを反映させたかたちでシンポジウムや展示を定期的、継続的に実施している [9-8][9-10]。 【教養課題 EP 科学技術リテラシー】個別の社会連携・社会貢献活動は存在しているが、科学技術リテラシーとして、社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む体制になっていない。 【リベラルアーツ】今年度発足した組織であるため、定期的な社会貢献に関する自己点検・評価はまだ行えていない。 【キャリア】社会連携・社会貢献については、「社会人基礎知識」による効果を検証し、学内キャリアセンターによる就職活動関連イベントなどの内容と重複することも多いため、2023 年度入学生のカリキュラムから廃止することにした[9-19]。 【専門職 EP 教職課程】地域の学校からボランティア派遣要請等があれば、そうした対応を検討していく。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0901	【語学 EP 英語】高大連携科目（英語スキル）[9-4]
項目 No. 0901	【語学 EP 外国語】学内にある CAAC（アクティブアゲイン）で、講義「東アジアの言語と文化」を担当し、外国語の指導を行っている[9-6]
項目 No. 0901	【健康とスポーツ】各教員のスポーツの専門分野を通して社会貢献をおこなっている [9-18]
項目 No. 0901	【教養課題 EP 科学技術リテラシー】エクステンションカレッジ、愛知学長懇話会の単位互換事業への参加 [9-2] [9-3]
項目 No. 0901	【リベラルアーツ】中部地区リベラルアーツ教育研究コンソーシアムの発足[9-12]
項目 No. 0901	【専門職 EP 日本語教員養成講座】春日井市と連携して学生ボランティアによる日本語教室に関わる活動を計画している [9-15][9-16]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	社会連携・社会貢献活動の活性化に向けた点検・評価、改善・向上の取り組み
今後の改善・向上方策	
人間力創成教育院としての社会連携・社会貢献活動の活性化に向けて、点検・評価、活動の改善・向上に関する仕組みを整理し、実施する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	【語学 EP 英語】高大連携科目
今後の改善・向上方策	
受講者が増える傾向にあるので、適切な対応方法を検討する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0901	【健康とスポーツ】社会貢献活動の拡充
今後の改善・向上方策	
競技スポーツだけでなく、生涯スポーツや健康づくりにも貢献できるよう活動の幅を広げていく。 また、専門スポーツ種目の技術だけでなく、さまざまなスポーツへ応用できる身体づくりなどもあわせて指導するなど、各教員の専門性を活かす。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色
留意点

*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 人間力創成教育院

基準 11 大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

□ 課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
課題・ピアレビュー記載なし	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	B
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
人間力創成教育院では、規程に則り、人間力創成教育院統括調整企画会議（人間力創成総合教育センター調整企画会議）、全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）、教員会議、SDGs 教育環委員会の各会議や委員会は適切に開催され、議事録も残されている [11-1][11-2][11-3][11-4][11-5]。また、議題が無い場合には、「取りやめる」または「メール審議とする」など、その運営も適切なものとなっている [11-6]。ただし、各教育プログラム（EP）会議が実施されていない、または、議事録が示されていないEPもあるので、今後、継続的な組織運営について調整したい。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	人間力創成教育院が関係する各委員会は適切に開催され、議事録も残されている。また、議題が無い場合には、「取りやめる」または「メール審議とする」など、その運営も適切なものとなっている [11-6]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	継続的な組織運営の調整
今後の改善・向上策	
議事録が示されていない EP もあるので、今後、継続的な組織運営について調整したい。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
全学共通教育委員会（人間力創成総合教育センター運営委員会）、教員会議、SDGs 教育環委員会の各会議や委員会 は適切に運営されていると判断できる。一方、各 EP 会議が実施されていない、または、議事録が示されていないな ど、機能していないと判断できるところもあり、是正が必要である。	
長所・特色	
特になし	
留意点	
＊各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
各 EP 会議が実施されていない、または議事録が示されていないなど、機能していないと判断できるところもあり、 議事録の作成について是正されたい。【A】	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するか評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2024年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名

人間力創成教育院

基準（シートNo.）	根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出 区分
2. 内部質保証 (NF2)	2-1	2023年度人間力創成教育院図	○
	2-2	2021, 2022, 2023年度 各教育プログラム（EP）活動報告書	○
	2-3	教育プログラム（EP）議事録 報告書・振り返り	○
	2-4	2022, 2023SDGs各WG名簿	○
	2-5	2023年度SDGsポスター	○
	2-6	2022, 2023年度SDGs学際専攻全学教育プログラムWG議事録	○
	2-7	春・秋学期SDGs学際専攻他学部科目担当者の意見交換およびアンケート実施について（通知）	○
	2-8	2023年度春・秋学期 授業担当教員アンケート（回答）	○
	2-9	SDGs教育関係WG報告2022, 2023	○
4. 教育・学習(4a) (NF4a)	4a-1	2023, 2022, 2021全学共通教育委員会3月（人間力創成総合教育センター運営委員会4月）議事録	○
	4a-2	2025年度遠隔実施科目申請書（教養課題EP（科学技術リテラシー）「生物と環境」	○
	4a-3	2023年度授業時間割編成依頼表（教職課程）	○
	4a-4	初年次EP学科外講師の調整2022作業2022年度用	○
	4a-5	参考テキストWebページ https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/news/detail-5030.html	○
	4a-6	SDGs学際専攻チラシ	○
	4a-7	入学前ガイダンスリーフレット	○
	4a-8	2024年度スタートアップ° セミナーに関するシラハ° ス執筆についてのお願ひ修正版	○
	4a-9	外国語シラバス	○
	4a-10	2023, 3, 28会議資料	○
	4a-11	04日本語スキル（様式1）新・授業時間割編成依頼表_日本語スキル 2023	○
	4a-12	情報スキル入門シラバス	○
	4a-13	情報スキル活用シラバス	○
	4a-14	健康科学シラバス	○
	4a-15	健康科学体力測定結果表（例）	○
	4a-16	スポーツCシラバス	○
	4a-17	2023年度教養課題教育プログラム人文社会リテラシー教員会議議事メモ2024年3月27日開催	○
	4a-18	科学技術リテラシー（様式1）授業時間割編成依頼表20221212表	○
	4a-19	データサイエンスのための数理要論講義一覧（シラバス）	○
	4a-20	問題解決のための統計学入門講義一覧（シラバス）	○
	4a-21	数学の思考法講義一覧（シラバス）	○
	4a-22	リベラルアーツ授業計画	○
	4a-23	23自己開拓Aシラバス	○
	4a-24	23社会人基礎知識シラバス	○
	4a-25	シラバスとコアカリキュラム「教育方法論（情報通信技術の活用を含む）」	○
	4a-26	必須の教育内容50項目に対応した日本語教員養成講座等の一覧	○
	4a-27	2000年報告に対応した日本語教員要請講座等の一覧	○
	4a-28	日本語スキル2023, 2022, 2021時間割	○
	4a-29	2024年度スタートアップ° セミナー実施に関する調査票の提出について（依頼）	○
	4a-30	2023年度（様式1）スタートアップ° セミナー実施に関する調査票	○
	4a-31	学習支援室 時間割 Webページ https://www.chubu.ac.jp/student-life/support/study-support-room/	○
	4a-32	中華料理の中国語	○
	4a-33	学部新入生日本語テスト	○
	4a-34	2024日本語アンケート	○
	4a-35	2023小テスト・復テスト	○
	4a-36	課題シート	△
	4a-37	日本語スキルA教科書「日本語表現と日本語の基礎」	△
	4a-38	日本語スキルAオリエンテーション資料	○
	4a-39	2023年度「スポーツ活動」について	○
	4a-40	2023年度シラバス一例_生活環境と人間_大橋岳担当	○
	4a-41	遠隔授業実施報告書	○

	4a-42	2023年度特別課題EPの活動	○
	4a-43	2023年度第2回特別課題EP会議議事録	○
	4a-44	リベラルアーツ シラバス	○
	4a-45	2023 年度 第7回学科会議議事録	●
	4a-46	日本語教員養成講座登録者新3年生20240226	△
	4a-47	2024年度日本語教育実習生リスト	△
4. 教育・学習(4b) (NF4b)	4b-1	2021, 2022, 2023年度 各教育プログラム (EP)活動報告書	○
	4b-2	2023, 2022入学前教育・初年次教育担当者会議議事録	○
	4b-3	科学技術リテラシー構成表	○
	4b-4	教職課程自己点検・評価 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/studyteacher-training/evaluation	○
	4b-5	入学前ガイダンスリーフレット	○
	4b-6	2023, 2022, 2021履修者数一覧	○
	4b-7	2025年度遠隔実施科目申請書(教養課題EP(科学技術リテラシー)「生物と環境」)	○
	4b-8	2023年度授業時間割編成依頼表	○
	4b-9	2021人間力創成総合教育センター運営委員会議事録・2022、2023人間力創成教育院全学共通教育委員会議事録(結合版)	○
	4b-10	学生による授業評価・教員による授業自己評価・授業改善アンケート Webページ https://www.chubu.ac.jp/about/university-activities/university-education/fd/classevaluation/	○
	4b-11	2022年度第4回日本語日本文化学科 学科会議議事録	●
	4b-12	教育実習スケジュール案	○
	4b-13	2022, 2023SDGs 各WG名簿	○
	4b-14	2022, 2023年度SDGs学際専攻全学教育プログラムWG議事録	○
	4b-15	SDGs教育関係WG報告2022, 2023	○
	4b-16	2023年第1回担当者会資料	○
	4b-17	日本語スキルAオリエンテーション資料	○
	4b-18	学生便覧(日本語検定2級取得での日本語スキルB単位認定)	○
	4b-19	2023年度シラバス一例 生活環境と人間_大橋岳担当	○
	4b-20	成績確認願についての連絡	○
	4b-21	成績確認願に対する回答	●
	4b-22	2023年度第1回特別課題EP会議議事録	○
	4b-23	2023年度第2回特別課題EP会議議事録	○
	4b-24	『自己開拓Aマニュアル集221207』23ページ	○
	4b-25	日本語教員養成講座2023便覧P85-87	○
	4b-26	英語スキルI/II授業案内	△
	4b-27	23秋中国語入門I 評価シート	△
	4b-28	23秋中国語入門I 学生授業評価	○
	4b-29	2023年度「持続学のすすめ」教務部報告	○
	4b-30	ループリック	○
	4b-31	教育効果測定検証論文2022	○
	4b-32	教育効果測定検証論文2023	○
	4b-33	2023 年度 第5回学科会議議事録	●
	4b-34	HSKチラシ	○
	4b-35	2023年3月26日日本語スキル担当者会議資料	○
	4b-36	ANTENNA No. 160	○
	4b-37	情報EP教員会議議事録	○
	4b-38	健康科学最終レポート	○
	4b-39	パイロット授業時間割および教室	○
	4b-40	2023年度学部教育課程変更案	○
	4b-41	2022年度自己開拓教員対象研修	○
	4b-42	2023年度キャリア教育プログラム第1回定例会議議事一覧	○
	6-1	人間力創成教育院人事申合せ	○
	6-2	人間力創成教育院昇格基準申合わせ	○
	6-3	初年次EP教員構成表	○
	6-4	科学技術リテラシー構成表	○
	6-5	2021人間力創成総合教育センター調整企画会議議事録・2022、2023人間力創成教育院統括調整企画会議 議事録(結合版)	○
	6-6	日本語検定団体受検申し込みについて	○
	6-7	日本語検定web申し込みについて	○
	6-8	2023年度日本語検定実施に伴うお願い	○
	6-9	健康とスポーツEP役割分担	○
	6-10	健康とスポーツEP授業計画	○
	6-11	創造的リベラルアーツセンター運営会議名簿	○

6. 教員・教員組織 (NF6)	6-12	専門職教育プログラム（教職課程）活動報告書	○
	6-13	教育の基礎的理解に関する科目等の変更届新旧対照表（中高）	○
	6-14	2023年度 教壇実習0824	△
	6-15	2023 年度 第5回学科会議議事録	●
	6-16	2023 年度 第7回学科会議議事録	●
	6-17	2023年度日本語教員養成講座教育懇談会議事録	●
	6-18	2022年度第4回人間力創成教育院統括調整企画会議開催メール審議（人事昇格について）初年次EP	●
	6-19	中国語非常勤講師への依頼メール	●
	6-20	新規教員採用に関する上申書	●
	6-21	2023年度 全学共通教育科目（教養課題EP 人文・社会リテラシー科目）へのご協力のお願い	○
	6-22	2021-2024年度(パイロット)授業時間割と教室（春・秋）	○
	6-23	2021人間力創成総合教育センター運営委員会議事録・2022、2023人間力創成教育院全学共通教育委員会議事録（結合版）	○
	6-24	2023年度初年次教育会議議事録	○
	6-25	2023年度スタートアップセミナーおよび入学前教育 担当者会議事録	○
	6-26	非常勤講師懇談会実施内容	○
	6-27	S. A. 報告書(韓国語入門Ⅰ)	●
	6-28	2023年3月26日日本語スキル担当者会議資料	○
	6-29	2023年度シラバス一例_人文学部開講科目のグローバルSDGs人文学	○
	6-30	2023年度第7回創造的リベラルアーツセンター運営会議議事録	○
	6-31	2022年度自己開拓教員対象研修	○
	6-32	2023年度キャリア教育プログラム第1回定例会議議事一覧	○
	6-33	教職課程年報	△
	6-34	かすがいいふれあい教室	○
	6-35	教職課程自己点検・評価 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/studyteacher-training/evaluation	○
7. 学生支援 (NF7)	7-1	2023年度第3・4回人間力創成教育院教員会議 議事録・（学生サポートセンター長宛）配慮申請者対応に関する依頼書	○
	7-2	2023年度スタートアップセミナーおよび入学前教育 担当者会議事録	○
	7-3	修学上の配慮依頼文書	●
	7-4	中部大学第59回FD・SD講演会オンデマンド配信サイト	○
	7-5	学生支援におけるメール記録	○
	7-6	自己開拓の授業内におけるSAによる記録_一部抜粋	○
	7-7	学習支援室	○
	7-8	SIルーム	○
	7-9	日本語教育担当者によるメール協議	△
	7-10	日本語スキル出席不振学生の連絡について	○
	7-11	授業補助員（T. A. ）に関する内規	○
	7-12	配慮願いを提出している学生とのメール記録	○
	7-13	学生相談室とのメール記録	○
	7-14	2023年度リベラルアーツEP活動報告	○
	7-15	自己開拓SAへのお願い	○
	7-16	秋学期自己開拓SA事前研修のお知らせ	○
	7-17	2023年度スチューデント・アシスタント（SA）制度	○
	7-18	非常勤講師懇談会実施内容	○
	7-19	2023年3月26日日本語スキル担当者会議資料	○
	7-20	2023年度第1回特別課題EP会議議事録	○
	7-21	2023年度第2回特別課題EP会議議事録	○
	7-22	キャリアEP定例会議議事メモ20230330	○
	7-23	キャリアEP定例会議議事メモ20230919	○
	7-24	教職課程自己点検・評価 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/studyteacher-training/evaluation	○
8. 教育研究等環境 (NF8)	8-1	webお茶会のお誘い	○
	8-2	2021人間力創成総合教育センター運営委員会議事録・2022、2023人間力創成教育院全学共通教育委員会議事録（結合版）	○
	8-3	2023年度SGE内委員会並びに学内委員名簿	○
	8-4	2023年度スタートアップ° セミナー実施に関する調査票	○
	8-5	2021年度語学EP(外国語)現状と課題	○
	8-6	情報EP教員会議議事録	○
	8-7	大学HP（体育・文化センター）	○
	8-8	人間力創成教育院シンポジウム_中部大学のフィールド科学_パンフレット	○
	8-9	西アジア考古学文化遺産セミナー特別展パンフレット	○

	8-10	2023年度第1回特別課題EP会議議事録	○
	8-11	2023年度第2回特別課題EP会議議事録	○
	8-12	創造的リベラルアーツセンター運営会議議事録	○
	8-13	キャリアEP定例会議議事メモ20230330	○
	8-14	キャリアEP定例会議議事メモ20230919	○
	8-15	教職課程自己点検・評価 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/studyteacher-training/evaluation	○
	8-16	日本語教員養成講座 重点事業計画	●
9. 社会連携・社会貢献 (NF9)	9-1	科学リテラシー紹介パネル	○
	9-2	2023年度秋学期聴講生志願者	△
	9-3	愛知学長懇話会HP（抜粋）	○
	9-4	中高大連携（英語スキル）	○
	9-5	春日井市多文化共生審議会	○
	9-6	CAAC授業（東アジアの言語と文化01）	○
	9-7	小学生運動教室依頼メール	○
	9-8	人間力創成教育院シンポジウム_中部大学のフィールド科学_パンフレット	○
	9-9	IUCNのワーキンググループにおける英文報告	○
	9-10	西アジア考古学文化遺産セミナー特別展パンフレット	○
	9-11	シラバス（地域共生実践）	○
	9-12	中部地区リベラルアーツ教育研究コンソーシアム申し合わせ	○
	9-13	シラバス（社会人基礎知識 神田）	○
	9-14	シラバス（社会人基礎知識 宮本）	○
	9-15	かすがいふれあい教室	○
	9-16	高蔵寺教室関係資料	△
	9-17	日本語学校説明会スケジュール	○
	9-18	教育・研究活動に関する実態資料（別冊_p179-180）	○
	9-19	2023年度学部教育課程変更案	○
11. 大学独自の評価項目 (NF11)	11-1	人間力創成総合教育センター規程・人間力創成教育院規程	○
	11-2	2021人間力創成総合教育センター調整企画会議議事録・2022、2023人間力創成教育院統括調整企画会議 議事録	○
	11-3	2021人間力創成総合教育センター運営委員会議事録・2022、2023人間力創成教育院全学共通教育委員会議事録	○
	11-4	2021人間力創成総合教育センター教員会議議事録・2022、2023人間力創成教育院教員会議議事録	○
	11-5	2022、2023SDGs教育環境委員会議事録	○
	11-6	人間力創成教育院全学共通教育委員会書面開催（通知）・開催中止（連絡）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管